

(様式4)

「鹿嶋市観光振興基本計画（案）」に対する御意見の概要とそれに対する鹿嶋市の考え方

	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	現状認識や計画案に齟齬や欠落などはなく、総じて体系的かつ要領よく策定されている印象を受ける。しかし重要なことは、計画にしたがい着実に実施していくことであり、そうした視点から計画案を概観すると、私見ながらエネルギー量に不足を感じる。今回は基本計画であり、これから実施計画が策定されるものと思われるが、もっと熱意が感じられる計画を期待したい。	今後の実施計画策定の際のご意見として、頂戴いたします。
2	第1章「1」の「地方創生の一環として、これまで以上に観光施策を強力に押し進める時期と捉えています」との認識はその通り同意できる。ただ、その地方創生という側面からみると、計画案は観光という一過性である交流人口の視点に終始し、より深いつながりが期待できる関係人口についての言及が皆無なのが気にかかる。本計画の守備範囲外なのかもしれないが、意識として認識しておく必要があるのではないだろうか。	ご意見として、頂戴いたします。
3	計画全体が市民へのアプローチに欠けるように思われる。市民のひとり一人が観光大使であり、おもてなしの心を持って訪問客を迎えるという心根が基本ではないか。遠回りかもしれないが、この姿勢がなければ地に足のついた計画にはならないように思う。P.33に枕詞として「市民」が記されているが、役割分担には記述がない。	ご指摘を踏まえ、修正します。
4	実施主体の補助として、観光などの研究機関や大学、アドバイザー組織を活用するという記述があってもよいのではないかと。また、中高生などに、たとえば「おもてなし」などの分野で活動してもらう視点があってもよいように思うがどうか。	ご指摘のように、観光施策のコンサルや大学等の組織を活用することは多くの自治体が行っており、本市においても今後は必要となるものと考えております。実施計画やアクションプランのように、より具体的な施策を行っていく際の検討事項としてご意見については頂戴します。また、「おもてなし」については、国体やオリンピックを控え、担当各課と連携した中高生を活用した観光ボランティアやガイドの検討を行っているところです。
5	各ページにゆとりがあり、図表や写真などが駆使されていて見やすい構成になっている。ただ、図表には工夫を要する箇所が散見される。具体的指摘は【個別的な意見(N09以降)】で示す。	各ご指摘について、対応いたします。
6	P.27の(1)問題点は、市民として残念な状況だが、実情としては正鵠を射ており、要領よく整理されている。P.28(2)の課題を含めて、第2章のμとして評価できる記述である。	ご意見として、頂戴いたします。
7	鹿島神宮に関連して一言。先(2014年)の御船祭で見聞したことを勘案すると、大勢の参加者への昼食提供や見物客の宿泊等々で、経済的に潤ったのは潮来市だという。鹿嶋市民としては複雑な思いがする。事前に打つ手はなかったのだろうか。	次回開催の際の、検討課題として頂戴いたします。
8	観光資源として重視したい箇所として「鹿島神宮境内附郡家跡」がある。どきどきセンターが発掘を進めているが、あの区域をつくば市の平沢官衙遺跡のように整備できないものだろうか。集客施設となるだけでなく、市民、特に児童生徒にとって郷土学習の場にもなる。	今後、施設の更なる利活用や郷土学習の場として繋げていけるよう担当課と連携し、検討してまいります。

	意見の概要	意見に対する市の考え方
9	P. 5①、P. 8①：それぞれ4つと6つの基本方針は、箇条書きにしたほうが見やすい。	ご指摘を踏まえ、修正します。
10	P. 6③、P. 7図表2-4：観光庁が用いているのだろうか。「国籍・地域別」という表現は、「国・地域別」と称するべきではないか。	観光庁に倣い「国籍」という表現を使用しています。
11	P. 6※：「訪日外国人観光客の訪日」はおかしい。訪日するから訪日外国人客なのではないか。	誤記のため、修正します。
12	P. 9①：「鹿嶋市人口ビジョン（H〇：20〇〇年度版）」が、4回も頻出していてくどい感じがする。2回目以降は鹿嶋市を省くとか、年度も西暦一本にするとかの工夫がほしい。	ご指摘を踏まえ、修正します。
13	P. 10図表2-6：表は空欄が多く分かりにくい。意味のない空欄には斜線を引くなど、それと分かる表示をする工夫がほしい。グラフはH22とH27がほぼ重なっていて分かりにくい。その箇所だけを拡大するなどの知恵がほしい。図表2-7は3区分をいずれも同色系で表示して見分けにくい。反対色を用いるなど明確な色別表示にしたらどうか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
14	P. 11図表2-8：縦軸は三桁ごとのカンマもなく6～7桁の数字が羅列されている。グラフ内の棒のように三桁ごとにカンマを付するか、縦軸の単位だけは「人」ではなく、「万人」にしたらどうか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
15	P. 11～12図表2-9、2-10：この図表にも工夫がほしい。まず1～10または1～18まで並べた都府県名または市区名であるが、左右とも同順位なのだから、表と図とのそれぞれの左側に列記する必要性は乏しい。もし記入するのならば両端ではないのか。もっと見やすいのは、表と図を分けることなく一体化して示すことではないか。「※ランキング外の数字含む総計」よりも「総計はランキング外の数字を含む」のほうが分かりやすいか。出典の「（じゃらんリサーチセンター）」とは何か？	図表については、資料をそのまま引用しているため、表と図を羅列しています。 ※の表現については、ご指摘を踏まえ、修正します。 また、「じゃらんリサーチセンター」は、リクルートの旅行カンパニー内に、新しい観光ムーブメントの創出、観光産業全体の活性化を目的として設置された研究組織となっています。
16	P. 12～13「一方、」ではじまる4行：「移動状況はというと」は「移動状況をみると」のほうがよいのではないか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
17	P. 14冒頭：「～いることが、下記（本市統計書）のグラフでもわかります」としたらどうか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
18	P. 14～15図表2-13、2-14：P. 11～12図表2-9、2-10と同じことが言える。	No15の回答と同様とします。
19	P. 16④：7行中に「観光資源」が4箇所、類似の「観光スポット」と「資源」を含めると7箇所と頻出しており、くどい感じがする。2箇所の「おらず」も目に障る。「また、」以降の「計る」は、「知る」または「調べた」がよいのではないか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
20	P. 16表2-4：全体的に文字が小さい上に、さらに小さい文字が使われており判読が困難だ。	ご指摘を踏まえ、修正します。
21	P. 17図2-2：目に付きやすく印象的な図になっているが、全体的に文字が小さい。凡例はタイトルの直下に持ってくるのが相当ではないか。また、凡例中の3カ所に（詳細P11）（詳細P51）とあるが、当該ページを開いてみても関係箇所が見当たらない。	ご指摘を踏まえ、修正します。 凡例中の関係箇所のページ表記については、誤記のため削除します。

	意見の概要	意見に対する市の考え方
22	P.18<イベント>：「経済効果と利益性の観点から仕訳すると、かなり差があると認識しています」の箇所だが、図2-3を見ても何と比較して「かなり差がある」のか不明だ。「仕訳」は「仕分け」の方が相当ではないか。また、図2-3の右上だけに「経済効果・利益が高い」とコメントされている。「高値」「安値」には違和感を感じる。図中のイベント名が3色で色分けされているが、その説明がない。本文の5行目「方」は、「住民」または「市民」が相当ではないか。「経済効果を考える」は削除したほうがよいのではないか。出典の「報告書」と「(株)うぶさな」との関係が分からない。	ご指摘を踏まえ、修正します。 「(株)うぶさな」については、鹿嶋市が委託した業者です。
23	P.19<施設><特産品>：上記<イベント>で指摘したと同様な箇所がある。ただ、図中の施設と特産品名は<イベント>とは異なり、単色になっている。図2-3にもいえるが、◎が頭に付されているものと、尻に付されているものがある。その別の理由が分からない。	色入りと単色の色分けについて、色入りの<イベント>については、時期ごとに色分けをしておりましたが、本計画においては<施設>、<特産品>が単色になっており、分かりにくいことから、<イベント>、<施設>、<特産品>すべて単色で統一します。 また、◎については、図上において見やすさを考慮したものでありますが、<イベント>、<施設>に統一し、削除します。
24	P.21⑤：図2-6の「鹿嶋＝羽田空港線」の停留所名が誤っている（東京駅＝鹿島神宮線と同じ）。重大な誤りではないか。また、路線名は正式名称か。図中の※印は不要ではないか。	
25	P.22中段：2次交通についての検証は的を射ている。図2-6中、バスの「鹿行北浦ライン」は廃止になったのではないか。	「鹿行北浦ライン」について、ご指摘のとおり廃止となっているため、削除します。
26	P.23図2-7：図下部の路線が密集している箇所が分かりにくい。そこだけでも部分拡大したらどうか。「公共交通サービス圏域」の表示に意味があるのか。図中に「レンタカー事業所」「レンタサイクル貸出場所」および「宿泊施設」が見当たらない。	ご指摘を踏まえ、修正します。
27	P.24図表2-17：最上項目（鹿島神宮）だけが突出していて、他の項目は10%程度以下に留まっている。こうした場合は、突出項目を波線で中抜き（中略）するのが一般であり、且つ見やすいのではないか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
28	P.25：「方」は、「客」または「人」のほうが相当ではないか。DMO以外にも脚注が必要と思われる用語がある。「FC」「鹿行5市」図2-8の「KPI設定」など。P.26図2-9の「アグリツーリズム」「なめがたFV」なども。P.25下段1行目「同年4月から」の「同年」は、「2018年」と略さずに記したほうがよい。	ご指摘を踏まえ、加筆・修正します。
29	P.27上から3行目：「整理し、～整理しました」は表現として変。前出の「整理し、」は削除するのが相当ではないか。	ご指摘を踏まえ、修正します。

	意見の概要	意見に対する市の考え方
30	P. 30「1」：観光関連事業者や団体に期待することも、その役割を明確にすることも重要だが、その前に市民があるのではないのか。地元民の意なくして誘客は期待できない。即効性は乏しいかもしれないが、まずは市民目線で考え、求めることが「基本」ではないのだろうか。そういう記述がほしい。	ご指摘を踏まえ、修正します。
31	P. 31表3-1：来訪満足度の「4.35/5.00」は、5点満点中の4.35点という意味だろうが、分かりにくい。単位欄に「（5点満点）」と記した方が分かりやすいか。※1だが、宿泊者率と来訪満足度の間は、「、」ではなく「・」又は「と」にしたほうがベターではないか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
32	P. 33：1行目に「市民」が掲記されているが、その分担についての記述が見当たらない。2行目の「各主体が、主体的（略）に～」の表現に違和感を覚える。	ご指摘を踏まえ、修正します。
33	P. 38図4-6：文字が小さすぎて、高齢者には読めない。	ご指摘を踏まえ、修正します。
34	P. 40「レンタサイクル」：検討課題のうち短期的課題として欠かせないものに電動補助自転車の導入があろう。神宮駅から神宮へのルートを見るまでもなく、当市は起伏の多い町である。タンデムの導入も検討したい。中長期的課題は道路整備だろう。自転車が安心して走行できるように道路の改良が求められる。長期的課題になるが、北浦湖畔や海岸沿いに自転車専用のサイクリング路を設けられればなおよい。	電動補助自転車については、既に8台が導入され、カシマサッカースタジアムやアントラーズのクラブハウスまで利用されている方もおります。また、タンデム自転車については、今年4月1日から茨城県内でも公道走行が解禁となり、茨城県でも視覚障害者による自転車利用の拡大や観光振興につなげたいと、今後も試乗会などの啓発活動を行っていきと考えています。サイクリングロードにつきましても、茨城県においてもサイクルツーリズムの促進に取り組んでおりますので、関係各課と今後の検討課題として協議していきます。
35	P. 42①：「沼尾・林地区地区整備計画」とは何か。説明がほしい。	本計画は、本市が「スポーツ先進のまちづくり」を推進するため、鹿島ハイツを含む周辺エリアを整備するものです。既存のスポーツ拠点としての機能強化や関連施設の整備を行うことにより、市内外のスポーツ施設利用者や滞在者をもてなすことのできる拠点として整備することを目的としています。詳細については、鹿嶋市ホームページの都市計画課のページよりご確認できます。
36	P. 43②：サッカーなどスポーツクラブの合宿では、練習も宿泊も神栖市内が多いと聞く。高速路線バスへのラッピングも同市が目立つ。その原因が何なのか分析と検証が必要なのではないか。	アントラーズホームタウンDMOにおいて、設立準備段階から神栖市も含めた鹿行各市の宿泊施設や合宿施設の調査を行っております。現在、インバウンドを中心に、国内からもスポーツ合宿の誘客に取り組み、鹿行各市において受入を行っております。ラッピングバスについては、ご意見として、今後の検討課題とさせていただきます。
37	P. 44写真4-6：はまぐり、メロン、鹿島タコ、汐菜、キャベツなどの一次産品の知名度もイマイチだが、なにより2次産品の知名度不足は致命的だ。写真4-6に掲げられたまんじゅう（うみの音）、かしま焼せんべい、ぼくでんさぶれなどは、市民である私も知らない。一次産品を活かした鹿嶋ならではの加工品の開発が求められる。著名な専門家（集団）に開発を委託するなどの方法をとれないものか。なお、写真の「はまぐり」は「鹿島灘はまぐり」とブランド名で記すべきではないか。	1次、2次ともに知名度アップのために、ご助言のありましたように、特産品の開発と既存品の磨き上げについて、取り組んでまいります。 写真の表記については、ご指摘のとおり修正します。

	意見の概要	意見に対する市の考え方
38	P. 45②：最終行で、②「多言語対応」が一部写真と重なっている。②は次ページに移したらどうか。	ご指摘を踏まえ、修正します。
39	P. 51：「協議が必要な場合」や「要望があった場合」に「随時、柔軟に対応していく」のは当然である。それだけでなく、相当頻度での定期的な協議や連携確認が必要なのではないだろうか。「随時」を超えて「常時」くらいの感覚と熱意がほしい。なお、「行く」は「いく」が相当だろう。	観光に関わる様々なコンテンツは日々新しいものが取り上げられ、開発も行われています。それを踏まえ、協議だけでなく、日頃から観光トピックや動態などに注視しながら取り組んでまいります。 「行く」については、誤記のため修正します。
40		